

姉妹都市交流事業の紹介

両市の交流は、風土・気候はもちろん、文化や生活観など、さまざまな違いを理解し合うことから出発しています。現在の交流は、青少年が国際的な視野を持てるようにと、青少年の相互派遣など、市民レベルの交流が中心です。

中学生のハーストビル市訪問

一般家庭にホームステイしながら、現地の中学校に体験入学したり、各種のレセプションに出席したりするほか、オーストラリアの首都キャンベラやシドニーも訪問しています。

11回目となる今年も、市内の各学校から選ばれた2年生男女8人が、7月29日から11日間の日程で訪問します。



今年ハーストビル市を訪問する中学生訪問団の皆さん

訪問団員として意欲満々の中学生たちに楽しみにしていることなどをお聞きました

オーストラリアの学校に行って、いろんな話をしたり勉強を見たい。
日本の遊びや勉強も伝えたい。動物などにふれあうのも楽しみ。
本場の英語、日本と違う文化や食べ物を体験したい。自分がどこまでできるか楽しみ。学んだことを白石の人に伝えたい。
ホストファミリーなど、たくさんの人たちとふれあうのが楽しみ。いっぱい話をしたい。



訪問前の事前研修。語学や現地でのあいさつ、出し物の練習に熱心に取り組んでいました

グリーンリープス使節団の白石訪問

ハーストビル市の中学生も、グリーンリープス使節団として、今年のように白石を訪問しています。今年も10回目の訪問団として、中学生12人が、6月25日から7月2日にかけての8日間、白石市を訪問しました。

中学生たちは、同世代の中学生がいる市内の家庭にホームステイしながら、体験入学や市内見学、日本舞踊や茶道といった伝統文化体験などを楽しみました。

ホームステイ先の家庭でも思い思いに楽しく過ごし、すっかり家族のようにうち解けていたようです。ホスト家族たちとメールや文通を約束するなど、未長い交流を誓い合っていました。



学校給食を実体験（南中）



英語の体験授業（南中）
日本の授業はどうでしたか？



ハーストビル市の中学生が授業で書いた和紙製のメッセージカード

ハーストビル市の中学生は、日本語の読み書きがとも上手でした。オーストラリアでは、日本との貿易や観光が盛んになったことで、日本語教育に重点を置き、最も学習者の多い言語になっているとのことです。

白石を訪問したハーストビル市の中学生から

白石は山や緑、周りの風景がとてもきれい。白石の人はみんなとても親切にしてくれた。日本・白石が大好き。とても楽しかった。1週間とても楽しかった。ホストファミリーに感謝しています。照り焼きや焼き鳥など、食べ物がおいしかったです。今度はホストファミリーがオーストラリアに来てください。



着物姿もあてやかです



茶道体験では実際にお茶をたててみました

市民訪問団「白石市友好の翼」

2年に一度実施し、今年で6回目となる「友好の翼」。シドニーやハーストビル市を訪問し、姉妹都市交流晩さん会を開催するなど、ハーストビル市民と交流しています。

今回は初めてタスマニアも訪問します。タスマニアは、オーストラリアの南端に浮かぶ北海道より一回り小さな島。島の3分の1が国立公園や世界遺産に登録され、原生の自然が残り、タスマニアにしかないタスマニアアンデビルを始めとする珍しい動物たちが生息しています。世界で一番きれいだといわれる空気、新鮮な食べ物などを楽しむことができます。



第5回友好の翼に参加した皆さん

姉妹都市締結10周年記念「第6回白石市友好の翼」参加者募集中!

市国際交流協会では、ハーストビル市との姉妹都市提携10周年を記念して、次のおり親善訪問団員を募集しています。

- 期間 11月20日(土)～27日(土)
- 訪問先 ハーストビル市、シドニー、タスマニア
- 募集人員 50名まで(先着順)
- 旅行代金 1人 250,000円

(市国際交流基金に助成申請する予定です。決定された場合には、1人当たり5万円助成します)
募集期間 9月30日(木)まで
申し込み・問い合わせ先
白石市国際交流協会事務局
(総務課国際交流係) ☎22
1331・☎22 1333



タスマニアアンデビル

国際親善水泳大会

ハーストビル市との姉妹都市提携がきっかけで大会がスタート。毎年9月、白石市と姉妹都市締結している都市の小中学生が集まります。ハーストビル市の中学生たちは、平成6年の第1回大会から毎年参加し、市内の家庭にホームステイしながらレースに出場しています。水泳王国・オーストラリアの選手と一緒に泳ぐことは、市内の選手たちに強い刺激を与え、大きな励みになっているようです。



大会当日の昼食は、オーストラリアが本場のパーベキュー。テラスで選手同士が交流しています

国際交流は世界平和のために

白石市が目指す国際化は、市民レベルの交流にあります。白石市の将来を担う青少年が、国際的な視野を持ち、世界の人々と対等に付き合える心を持つためには、海外との国際交流がぜひとも必要です。

白石や日本のすばらしさと同時に、オーストラリア・ハーストビル市のすばらしさも理解しながら交流し合おう。こうした相互交流は、お互いの社会・市民に多くの利益をもたらすし、両国をはじめ世界の平和と繁栄にも少なからず貢献します。

これまでに両市の子どもたちや市民の間に生まれた友情はこれからも続き、さらに次の世代をなう青少年たちにも新しいいきずが生まれ、いくことでしょつ。



ホストファミリーと家族のようにうち解けていました(7月1日の親善交流パーティー)

第二次世界大戦と日本・オーストラリア
日本とオーストラリアは第二次世界大戦で敵対関係になり、シンガポールやニューギニアなどで戦火を交えました。日本との戦争で死亡したオーストラリア人は1万7千人以上にのぼり、シドニーの南西の町カウラにあった日本人捕虜収容施設では、捕虜の集団脱走事件が発生し、数百人が死傷するという悲しい事件も起こりました。
この戦争はオーストラリア人の心に深い傷をおわせ、多くの国民がしばしば日本に対して憤りの念を抱いていました。しかし、時を経るにつれて両国の理解も深まり、こうした感情も和らぎつつあります。
現在、カウラには戦没者墓地や東京都が寄贈した日本庭園があり、墓地と庭園を結ぶ5キロの道には、白石市とハーストビル市の橋渡し役を長年努める日豪文化交流協会理事長の戸倉氏が両国の友好を願って発案した、二本が目標の桜並木整備が行われるなど、カウラの地は、両国の親密な友好関係の象徴となっています。白石市でも平成13年に川井市長が同地を訪問し、桜の木を一本寄贈しています。